



★八王子中だより★

★学校教育目標 『大志を抱け ひとみ輝く 八中生』

～ 賢く 豊かに 逞しく ～

★令和8年1月8日(木) さいたま市立八王子中学校学校だより 1月号

★HP アドレス <http://hachioji-j.saitama-city.ed.jp/> (生徒の学校生活の様子等をHPにアップしています)

仲間の力

校長 酒井 和浩



新年あけましておめでとうございます。今年学校へ初出勤した際、日陰部分には先日降った雪がまだ残っていました。また、昨年後半はインフルエンザ等が大流行となり、ニュースにもなりました。まだまだ寒さが続くとのことですが、体調にはぜひ気を付けていただければと思います。

1月2、3日には、毎年恒例の箱根駅伝大会をテレビで観戦しました。今年は区間新記録が多く誕生し、選手のこれまでの努力が成果として表れた大会でしたが、その中でも、これまででは考えられない2つの記録が印象的でした。1つは5区の区間新記録です。区間新記録を出した選手は、タスキを受け取ったときには、先頭から3分24秒の差があり、各校の監督、選手ともに逆転するのはほぼ難しいと考えていました。しかし、結果は逆転した上に18秒の差をつけて往路優勝し、これまでの区間記録を約2分も更新しました。2つ目は、復路17位一斉スタートから上位10位に与えられる来年シード権を獲得した学校の記録です。復路スタート時に10分以上離されているすべての学校が一斉にスタートするため、その場合の順位は「見た目の順位+タイム差」となり、非常にわかりにくく、その上、過去に一斉スタートからシード権を獲得した学校はありませんでした。しかし、「世界一あきらめの悪いチームへ」をスローガンに掲げるこの学校は、5人の選手が諦めることなく力走し、10位の学校から4分15秒あった差を縮め、順位を17位から9位まで上げて「史上最大の逆転劇」としました。5区の区間新記録を出した選手は、「何よりも大きかったのは、4区までの選手が苦しみながらもタスキをつないでくれたこと。(中略)自分もやらなきゃとなった。自分ひとりの力じゃない。」と振り返り、逆転でシード権を獲得したチームのキャプテンは、「走った選手だけでなく、それ以外のみんなも諦めずに、復路に臨んでくれた。」と振り返っていました。

今回の箱根駅伝を観戦し、選手のこれまでの努力と想いが伝わってきました。陸上は各自がタイムを出す「個人種目」と思われがちですが、駅伝では「チーム」としての想いが個人の力を更に発揮させることにつながっています。仲間への想いとそれを受け止めることの大切さ、そして仲間を信じ、最後まで諦めない強い信念を持つことが目標の達成に大きく影響するものだと感じました。周りが「無理だ」と言っていることについても、練習や想いなどの積み重ねが「無理だ」から「できる」につながっていきます。本校においても、2年生は3学期に館岩自然の教室が実施されます。個々のレベルアップとともに、5区で区間新記録を出した選手のように、自分ひとりではなく、仲間とともに目標に向かって取り組んでほしいと思います。そして、3年生はもうすぐ受験が始まります。史上最大の逆転劇を見せてくれたチームのように最後まで諦めずに取り組み、コツコツと実力をつけて、結果を出してくれることを期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様、そして地域の皆様におかれましては、昨年に引き続き、本校の教育活動にご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。